

## 第4回 足羽川桜つつみ協議会 議事要旨

開催日時 : 平成19年7月24日(火) 午後1:30~3:00

開催場所 : 福井県民会館ビル 306号室

出席委員 : 葉袋奈美子 (福井大学 建築建設工学科 講師)  
今井三千穂 (総合グリーンセンター、樹木医)  
内藤 汎 (福井市都市景観審議会 委員、樹木医)  
朝倉 邦真 ((社)福井青年会議所)  
石川 裕夏 (福井商工会議所 青年部)  
中山 重成 (桜並木を守る会 代表)  
橋本 浩 ((財)福井観光コンベンション協会)  
平井 博政 (NPO 法人ドラゴンリバー交流会)  
上村 祥代 (一般公募: 福井大学)  
松下 幸男 (一般公募: 毛矢五の組自治会長)  
荒井 證次 (足羽子ども会育成会 会長)  
安本 暢男 (福井南ロータリークラブ)  
吉岡 正博 (スリーAクラブ)  
(欠席) 藤井富士雄 (足羽エコ探検隊 隊長)

### 1. 開会

### 2. 議事

- ・足羽川の桜堤に関する検討経緯について
- ・植栽・施設計画のまとめについて
- ・維持管理計画のまとめについて
- ・撤去する桜の有効利用のまとめについて

事務局: (資料-1~4の説明)

#### 【計画のまとめについて】

事務局

(岩本課長): 市政広報における桜堤の意見募集に対して、現在までに寄せられた市民の意見を参考までにご紹介する。

<意見①> 堤防強化のために、桜を撤去するのは止むを得ない。新しい桜並木には、いろいろ楽しめるように、サツキ・アジサイ・シバザクラ等の低木も植えてほしい。また、足羽山も借景としてきれいに整備した方がよい。福井市が良くなるようなプランをたててほしい。

<意見②> 撤去する桜のうち元気なものは、民間への移植公募を検討するとともに、できるだけ沿川や公共施設等に移植してほしい。

<意見③> 桜橋から下流の区間についても、同じような考え方で整備してほしい。

葉袋委員長: 今回説明した桜堤の植栽や施設の計画、維持管理の方向性を、協議会の報告として県と市に提案することとしてよろしいか。

内藤委員：激特事業で整備する区間以外についても、今後既存の桜が衰えてくる。桜が枯れた時に一斉に桜堤を整備し、若木に植え替えても、桜並木の景観の見劣りは避けられない。桜の更新時期としては植樹から約 60 年が経過した今が良い時期なので、是非、激特以外の区間の桜堤整備も順次進めていってほしい。この件について、委員の皆さんのご賛同を得て、協議会からの要望事項として取り上げてもらいたい。

全委員：異議なし。

葉袋委員長：今回の工事区間に留まらず、将来に渡り堤防の桜を楽しめるように、桜堤を整備するための検討を続けていってほしいということ、協議会の報告書にきちんと明記させていただく。

吉岡委員：今回の計画を機に沿川の道路整備も考えられないか。桜のトンネルの良さはこれまで堤防上を歩いて感じたが、新しい桜並木の計画は桜が雛壇状になるため、下の道路から見上げてもらう良さもある。例えば堤防沿いの道路を石畳にして、擁壁に行灯を埋めるのも古風な感じがあって良い。癒され潤いがある、そういう雰囲気にならないかと思っている。

葉袋委員長：桜堤の件も、本来はまちづくりから議論しなければならないものである。行政の工事費用の分担ということで難しい面はあると思うが、これを機会に、「歩いて楽しいまち」を目指して、少し遠回りでも堤防を歩いてみたくなるような道を考えることも大事であると思う。周りのまちづくりについても、桜堤と一体的なものとして今後進めてほしいということ、報告書の中に明記することとしたい。

橋本委員：桜堤の維持管理については、一つのまちづくり事業のように思うが、激特事業が終了したら、どこの部署が桜堤の窓口となるのか教えてほしい。民間主体の維持管理組織では、まちづくりに関する情報量も少ないため、行政からのてこ入れが重要になってくる。県と市の役割分担を明確にし、担当部署をはっきりさせ、長いスパンで考えないと、桜の維持管理に関する課題は解決できない。行政内部の横断的な体制も要求されると思うが、その点について行政はどう考えているのか聞きたい。

事務局

(岩本課長)：桜堤の 2.2km 区間については、福井市の観光開発課で今まで以上に剪定や害虫駆除の管理をしていくつもりであるが、これから新植する桜の維持管理は、河川課も協力する。ただし、桜の種類や本数が増えると、行政だけの管理では手薄になるため、皆さんの支援が必要になってくる。また、まちづくりという話については、都市計画課も含めた福井市の中で連携をとって考えていきたい。

(桑野課長)：将来のまちづくりや景観については、都市計画マスタープランの中に基本的な事項が述べられている。また、福井市にも景観に関する基本計画があり、その中でも足羽川を位置づけしている。足羽川の桜堤は、福井市のまちづくりの一つの景観軸として位置づけすれば良いと思う。

葉袋委員長：県、市とも関係部署に係わらず、市民の桜を愛する気持ちに伝えていただきたい。

### 【新しい組織づくりについて】

事務局：桜堤の景観を維持していくためには、管理が重要である。協議会で管理組織の方向性を決定していただいたが、今後につなげるためにも、この場で新しい組織づくり

の立ち上げについて意見をいただきたい。組織設立の準備会の人選に踏み込んだ意見でも良い。足羽公民館の方と話をさせてもらった時には、足羽地区の住民も桜の管理に携わらなければならないが、一般住民や NPO、各種組織団体も参加してほしいという意見であった。

内藤委員：足羽山と足羽川との一体化や駅前につながる桜ロード等、桜堤のみならず、市の桜を全体的に考える組織にしたらどうか。単なる維持管理だけの組織でなく、以前商工会議所青年部が企画した桜ルネサンス等を例に、すばらしいことを持続できるような組織にしたらどうか。桜堤から範囲を広げることになるが、一体的に考えた方が基本的に良いと思う。

石川委員：青年会議所としては桜ルネサンス等で桜に関わってきたが、我々は桜だけを扱う団体ではない。今回の新しい組織設立では、立ち上げの支援や立ち上がった組織に対する協力は積極的にしていきたいと思っている。

松下委員：足羽山や足羽川を後世に伝えるために、足羽地区の住民が責任を持つ必要がある。足羽地区で活動している方が中心になる方が良い。

荒井委員：足羽地区としても来年から、公民館を中心にエコ活動を行う予定であり、この活動の流れの中で桜堤の管理にも携わろうと考えている。足羽地区自治連合会が中心となって、他の組織と共に行動を起こしていくという方向が良いと思う。

葉袋委員長：足羽地区だけに頼っていても限界がある。足羽川と足羽山の両方が愛される場所になるためには、いろいろな係わり方や窓口が用意されていることが必要である。

内藤委員：組織は一般市民対象というよりも、少し広めにしたらどうか。桜が枯れて伐採する場合は費用もかかることなので、例えば支援をしてくれる企業も含めるような組織が望ましい。

今井委員：これまでの桜の維持管理が不十分であったことを反省し、新たな管理組織には技術的なアドバイスが十分できる組織を取り込んでおくと良い。例えば、天狗巣病は事前の対応で発生を防ぐこともできる。樹木医の福井県支部にも知識を持った方々がおられるので、大いに活用したら良い。一般市民が正しい知識を全部マスターすることは大変なことなので、技術的側面をマネジメントの中に位置づけることも重要と思う。

葉袋委員長：樹木医だけでなく、対象に河川敷も含めることにより、土木関係の専門の方や関係する分野の専門の方々に携わってもらおうと良い。

## 事務局

(岩本課長)：非営利組織を立ち上げて頂き、ドラゴンリバー交流会のように社員と会員の区別をして、一般の方や樹木医の方にも社員になって頂き働いてもらおうと、広範な活動ができて長続きすると思う。福井市でも非営利組織立ち上げの相談として、市民協働推進課で NPO の立ち上げ窓口相談をやっている。やる気のある方は、次回 8 月 8 日に開催される説明会に申し込んで、広域的な活動に支援いただきたい。

松下委員：ドラゴンリバーでゴミ拾いを毎年行うが、必ずジュース 1 本が渡される。このように協力しやすいような工夫も必要である。

葉袋委員長：NPO さえ立ち上げればなんとかなるというのではなく、必要であれば NPO にすれば良いというくらいにしておかないと、皆の気持ちと違う所に組織の目標が存在し

てしまったり、皆がついて行けなくなってしまう問題もある。多くの人が係われる、また次に係わりたいと思われ続けるように、活動というものを市民の力で盛り上げられたら良いと思う。

朝倉委員：一番近くに住んでおられる足羽地区等が中心となって、運営してもらうのが良い。もちろん支援はさせてもらう。

荒井委員：ISO14001を取得された企業やエコアクション21に認証された企業に、資金援助をお願いするのも良い。

平井委員：ドラゴンリバー交流会の社員と企業・公共団体会員からは1万円、個人会員の方からは3千円の年会費をいただき活動費に充てています。しかし、会費だけでは、植樹や一斉清掃等の活動資金が足りない状態で、事務局の運営経費も大変難しく、税務署への報告もかなり複雑であるという課題もある。NPOを立ち上げるのであれば、これらのことを考慮し、経理面をしっかりとしておく必要がある。新しい組織ができたときには、活動母体だけが集まるのではなく、夢を語るような、自由にフリースペースのような場としての一面があった方が良い。運営面ばかりに片寄っているのは、一般の方が参加しにくい。「ちょっと川でものぞいてみようかな」という、少し緩い組織のようなものがあって、その下に活動母体としての組織がしっかりとしていると、市民が参加しやすいと思う。

中山委員：桜の保全や維持管理に関する組織を早速作るべきである。作ることは皆さんも賛成されていると思う。これまで熱心に協議してきた意思をまとめて、市民を巻き込んだ大きな組織ができれば、行政も納得すると思う。まずは発起人会を発足させ、どういう組織か、どういう方法か、会費をとるかとらないかなど、具体的な案を作っていくのはどうか。特定の方が実行するとしがらみもあるので、最初は県や市が呼びかけをした方が良い。福井市民に愛され親しまれている桜を保全する意欲がある会にしていく必要がある。まずは維持管理の会を作るために、集まってもらうと良いと思う。

安本委員：足羽地区の一番空気のおいしい景観の良い場所に住まわせていただいているという感謝の気持ちで毎日堤防の掃除をしているが、一人が掃除していると他の人も出てきて、町内全体の掃除に広がっていく。私が所属している社会奉仕の会も、連絡があれば清掃活動に参加しているので、各種団体へも働きかけをお願いしたい。

上村委員：春まつりのアンケートで、市民にボランティア意欲が高いことが把握できたので、まずはボランティアや桜に関心のある人を集めて、その中で行政や他のボランティア団体、専門的な知識を持った方も含め話し合った方が、どんな体制をとっていくのか決められるのではないと思う。

薬袋委員長：今までの意見をまとめると、①ボランティアだけではなく、専門家など様々な人が係われる受け皿としての組織を作ろう。②長期的なスタンスで考えると、県や市の公共事業の兼ね合いも大切なので、行政とのおつきあいも大事にしよう。③地元足羽地区の人が、積極的に係わって頂けるような体制をつくろう。④より多くの方が夢を語り合う中で、係わって頂ける方の輪を広げよう。ということかと思う。足羽川や足羽山も含めた周辺地域のことを考え、夢を語り合う中から、積極的に係わる受け皿となる会を作るための準備会を立ち上げたい。できれば誰かにリーダーシッ

ブをとっていただき、発足に向けて活動を始める体制が整えられたらと思う。

荒井委員：地元が先に立って中心になると、全部地元任せになりかねない。地元としては、係わっていただける大勢の方に協力する意思はあるが、一步下がった行動をとっていききたい。

葉袋委員長：行政に立ち上げをお願いすればスムーズに行くのかもしれないが、河川課という窓口だけに依存すると、市民にとってすごく動きにくい場になってしまうと思う。どなたか引き受けていただけないか。

内藤委員：桜づつみ協議会の継続のようなものなので、今までの議論を無駄にしないためにも、もう一度葉袋先生にお力を貸して頂き、準備会の中心としてやって頂けたらと思う。

全委員：異議なし。(一同賛同の拍手)

葉袋委員長：では皆様の協力を頂いて、準備会を立ち上げる用意を私なりに努力していきたい。

事務局

(桑野課長)：協議会の内容をもとに詳細設計を行い、10月頃には工事に入りたい。工事前の既存桜の撤去等で新たな組織が係わっていくのであれば、できるだけ早い時期に準備会の立ち上げをお願いしたい。行政も協力していきたい。

平井委員：立ち上げの際には、財源的なことも考慮しておくが良い。電話や事務所等の必要経費を把握しておく、割と長持ちする会になると思う。また、ドラゴンリバーの場合、会員数を維持するために、会員に活動内容を定期的に報告したり、会員がおもしろいと思える活動を企画したりして、会費を出して良かったと思えるような努力をしている。

葉袋委員長：9月上旬に任意の会として準備会を立ち上げる方向で、事務局を通じて日程を調整させていただきたい。組織の運営を含めて専門的なことをご存知の方、楽しみ方のアイディアのある方、そういう方々を是非連れて来て頂ける準備会にしたいと思うので、よろしくをお願いしたい。

### 3. 事務局からの連絡等

事務局：今回の結果を受けて、8月に協議会から県と市にとりまとめの報告をしていただく。

県と市は、この報告に加えて市政広報で寄せられた意見等を考慮し、計画を決定する。その後、腐朽調査の結果を踏まえた既存桜の移植や伐採の検討、公募等の手続きを進める。台風シーズンの終わった10月中旬を目処に堤防工事に着手したい。

### 4. 主催者挨拶

(福井県河川課 桑野課長)

### 5. 閉会

以上